

ライフサポートひなた

症 例 概 要 利用者：40代 女性 介護度3

利用期間：R7 9月～

既往歴：クモ膜下出血後遺症

経過：

右中大脳動脈瘤破裂クモ膜下出血。

同日A大学病院にて開頭クリッピング施行。

Bリハビリテーション病院転院する。

ベッドから転落し脳CTで水頭症認められ、

A大学病院転院。

腰椎腹腔シャント造設施行。

Bリハビリテーション病院転院し回復期リハビリテーション施行中。さらなるリハビリ継続目的により当施設入所の運びとなる。

内 容

氏は、練馬区の自宅にて小学生の娘様とご主人の3人で生活をされていた。

しかし、仕事中に突然倒れ救急搬送となり、その後リハビリテーション病院へ転院。回復期リハビリテーションを施行されていた。

回復期病棟でのリハビリを経て、さらなる機能回復と生活再建を目的に、リハビリ継続の場として当施設へご入所となった。

入所当初は、身体機能の低下により移動は車椅子が中心であり、生活全般に対して強い不安と自信喪失が見られた。

そこで当施設では、身体機能の回復のみならず心理面の支援も重視し、段階的な歩行訓練を開始した。車椅子から立位練習、杖歩行へと無理のないペースで支援を行い、「できること」を一つひとつ積み重ねた結果、最終的には独歩での歩行が可能となった。

この成功体験を通じて自信を取り戻し、「娘に料理を作ってあげたい」という前向きな思いが芽生えた。ご家族の好きなメニューのフレンチトースト作りに挑戦することとなり、職員が一丸となった“Our Team”の支援体制で取り組んだ。安全に十分配慮しつつ、ご本人主体で調理を行っていただき、達成感と笑顔があふれる時間となった。

本事例は、継続的なリハビリ支援が身体機能の回復にとどまらず、自信の回復や家族との役割再獲得へとつながることを示している。利用者様の想いを中心に据え、チームで支える介護の意義を改めて実感した取り組みであり当施設が目指す在宅復帰を達成するとともに、リハビリのみならず楽しく充実した日々を提供できた事例として、キラキラ介護賞に推薦いたします。